

第4回 横浜市都市計画マスタープラン改定検討委員会会議録

日 時	平成23年1月20日（木）10時00分～12時00分
開催場所	松村ガーデンホール
出席者 (敬称略)	委員 高見沢実（委員長）、小泉秀樹、金子忠一、中村文彦、真野博司、吉田洋子 事務局 都市整備局 青木 企画部長、齋藤 都市づくり部長、内海 企画課長、石津 地域まちづくり課担当課長、吉田 企画課課長補佐、大蔭 地域まちづくり課課長補佐
欠席者 (敬称略)	委員 村木美貴、三輪律江、
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	1 開会 2 議事 (1) 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言（素案）（案）について (2) その他（市民意見募集について）
議 事	<p><b>1 開会</b> (事務局) 開会及び資料確認</p> <p><b>2. 議事</b> (1) 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言（素案）（案）について (委員長) 本日は提言（素案）について議論するのがメインの議題。その他として意見募集について議論する。なお、第2章は細かい点があるとともに、これまで議論をしてきたところなので、今日は第2章を先に議論し、一番重要であると思われる第1章に遡って議論する。 (事務局) 資料2 第2章 説明 (委員長) 今日議論した結果について市民意見募集を行うことになるので、より良いものにしていきたい。また、三輪委員の意見（別紙）を見ていただきながら、意見をいただきたい。 (吉田委員) 41 ページの都市構造図に川が入り良かった。 42 ページの地域構造図は中期計画の図をそのまま掲載しているが、この図も都市マスタープランとして、川なども入れて、都市構造図にあうように描いてほしい。 郊外の住宅地についてはきめ細かく書いていただいているのでよいと思う。郊外部の人は、郊外部のブランドは何かと考えている。例えば、高齢者が増えても高齢者が楽しく住み続けられるまちであれば、それもブランドであろう。子育ても同じ。 33 ページの郊外部の「従来の発想や方法にとらわれない・・・」は良いと思うが、これだけでパブリックコメントで市民がわかるかどうか少し心配。行政だけでは新たな発想が出にくいので、地域からの意見も出てくると良い。</p>

	<p>ソーシャルビジネスは郊外では難しいと思うが、「食」や高齢者がいきいきできる新しいビジネスが考えられないか。地域の中だけで充足するのは無理であるとは考えており、外の力が入るような仕組みが必要。他の委員の意見も伺いたい。</p> <p>(委員長) 三輪委員も同様のことを書いている。33 ページの郊外住宅地の最後の行の「取組を行う。」あたりに、「多様な主体が協働して」みたいな言葉を入れてはどうか。高齢者が楽しく暮らすということをどのように表現するか具体的にあれば後で教えていただきたい。</p> <p>(中村委員) 30 ページの①と 35 ページ。「コンパクトにする」とあって、その結果「こんな効果がある」と書いてあるが、「コンパクトにする」のは手法・手段であり、かつゴールの形。「〇〇を達成するためには、コンパクトにすることが、他の方法に比べて良い」の方が良いのでは。そのほうが市民にもわかりやすいのではないか。</p> <p>交通は、33 ページは基本的にはこれで良いが、「誰も」は誰なのか。3つあって、①都市間はきちとつなげる。②港、空港、新幹線、リニア等からは、ちゃんと入れる。③日常生活。「誰も」が介在して、33 ページの頭にあれば良い。</p> <p>42 ページの図。地域交通の「維持」とあるのが引っかかる。現在のサービス水準が低い地域もあるので、必要な機能は何なのかを言うべき。本文、35 ページの表の中にも「維持・活性化」とある。少し古い。横浜は、「お出かけサポート」といって他の都市にない、モビリティに関して議論する仕掛けが始まっている。それを入れてほしい。</p> <p>33 ページにある、「駅勢圏」という単語は定義が難しい。「通常の日常生活の圏域を超えたところからのアクセス」みたいな言葉にした方がよいのではないか。</p> <p>31 ページの「過度な自動車利用・・・」のところ。車利用を抑制するためには、道路空間、車のためのスペース、駐車場等を減らすことを考えないと難しい。どんなに公共交通を充実しても、車側に対しても何か行わないといけない。それには決断が必要。自動車利用からの転換を促進すると言うのであれば、車に関する議論が必要になる。都市構造を作り直していく中、空間を再配分する中で、車に関して考える必要がある。バスや電車だけの議論だけではなく。</p> <p>(委員長) コンパクトは、30 ページ①の「・・・に対応した、・・・」のところを若干換えることで、コンパクト化が事前に決まっていることではないというニュアンスを伝えることができるのではないか。</p> <p>外との連携では、37 ページで、横浜に、いかに来やすくすることを強調する。</p> <p>32 ページ③の「・・・打ち勝つ・・・」は、他の項目とのバランスが悪い。今後の都市間競争は、打ち勝つだけではなく、個性をお互い</p>
--	---

	<p>に強調しながら補い合う面が強くなると思う。⑥でその意図が伝わるように書き、横浜が良いから自然と人が来る、といった感じを出したい。「打ち勝つ」を別の言葉に置き換え、全体的に良い雰囲気が出ているようにしたい。</p> <p>「維持・活性化」については、例えば「維持・増進」とかに統一できないか。</p> <p>(中村委員) 「地域モビリティの持続的確保」などにすれば良いのでは。</p> <p>(真野委員) 「打ち勝つ」は私が提案した文言であるが、少し柔らかな表現にしていただいても良い。世界の都市間競争が始まっており、それに打ち勝つ心意気が伝わるような穏当な表現を考えていただきたい。</p> <p>33 ページの臨海部。「国際的」は一般的、抽象的な表現。一步踏み込んで「世界の最先端をいく」という表現にしてはどうか。産業分野での競争で、新興国との競争に勝つためには今まで通りの方法では駄目で、それが日本独自のもの、かつ世界の最先端のものに変えて行かなければならない。それが読み取れる先鋭でありながらも、穏当な表現にすることが望ましい。</p> <p>33 ページに「産業、研究開発拠点として再編整備を進める」とあるが、39 ページの目指すべき都市構造の後段では「産業、業務、研究開発、物流」が臨海部の主要な役割を果たすとなっている。ページによって言葉が抜けているところがあるので、表現の整合性を取る必要がある。</p> <p>ソーシャルビジネスでは、個人+個人の領域以外でも、イベント、B級グルメなどもある。事例を探して書き加えていったら良いのではないか。</p> <p>(中村委員) 産業、港の競争はわかるが、何の競争にどう勝つのか。勝ち方にもいろいろある。圧倒的に勝つのか、東京を配下に付けて勝つのか、タグを組むのか。そのイメージが言葉として足りないのではないか。</p> <p>(委員長) パブコメの前により良い記述ができればお願いしたい。</p> <p>(金子委員) 42 ページの図を工夫するとよくなる。駅徒歩圏、郊外住宅地の表現のしかたを、35・36 ページの都市構造の記述を意識して表現するとわかりやすくなる。上は駅を中心とした機能集積、下は郊外住宅地がポイントになる。図を見ると「駅」「大規模団地」「戸建住宅地」に目が行く。逆転した形で、2つの方向性があることを示すとわかりやすくなる。</p> <p>都市構造図で駅を2つに分けている、その違いが2つの駅(42 ページの図)の違いになっているのではないか。そこを意識して表現すると都市マスとしての図になるのではないか。</p> <p>(委員長) 全体を通して、同じことを異なった用語を使っているところがあるので、整合を図り、よりわかりやすくしていきたい。</p>
--	---

(小泉委員) この提言に記載すべき事ではないかもしれないが、どうしてコンパクトな市街地を形成しなければならないのかを示すことが必要。本来はパブコメの際に、放っておくところなり、コンパクトにするところなるというメリットを示して、大きな方針を出していると説明すべき。時間的制約などもあり、直接盛り込む必要はないかと思うが、パブコメでは、従来の政策とこの点が違って、この点を強調している、そのことによって、こういうことが達成できる、など、重要なポイントだけは、そういう表記を考えて、意見が出やすいようにすることが大事ではないか。

32 ページ④。地域まちづくりは独立させても良い重要なポイント。2つめのパラグラフを必要性、横浜市の多様な取組状況等を踏まえつつ、新たな展開ができるような記述ができないか。強く押し出しても良いのでは。

35 ページのコンパクト化の概念は良くなった。これと関連させて、42 ページの図について。駅周辺に誘導したい施設や機能を例示的に本文に書き込めないか。各種生活利便施設の立地を調べると、生活にとって不便な利便施設の立地になっているものがある。それに本腰を入れてやる気があるのであれば、明確にしておく必要がある。

(吉田委員) 若い人の観点からの横浜の魅力の部分について見直したい。都市の魅力、観光、交流が言葉として出てくるが、具体的にイメージされていない。地域まちづくりと連動して、合わせ技的に都市の魅力をつくっていくべき。例えば金沢区の観光は、地方の観光とは違って、人が来るような心地よい環境をつくるのが観光需要を呼び込み、なおかつ、住む人たちにとっても魅力的なまちになる。このような合わせ技の知恵を出せないか。文化、芸術、観光、交流のところを拾ってみたが少し弱い。農地でも同じで、農業をどう捉えるか。緑の一部として捉えるか、横浜は市街化区域と市街化調整区域と入り組んでいるので、少し行くと魅力的な場所がある。そういう合わせ技的な面で見直してみたい。

(委員長) 今の議論も誰がやるのか等、一章の内容とも関連する。一章に戻って、事務局から説明を。

(事務局) 資料1及び資料2の第1章 説明

(吉田委員) 2 ページの関係図について。都市計画の今までの流れを考えると、絵にしていけることが重要。横浜市は広いので、区別に絵がある事が、市民、区民にとってもわかりやすい計画になる。基本構想の区別計画はない状況。都市マスばかりに期待をよせるのはどうかと思うが、どこかに絵があったほうが良い。そのあたり、区別の計画の絵についてはどのような議論がされているかを聞きたい。自分の意見

	<p>としては、どこかで絵をつくっていくべきだと考えている。また、現行の区のマスタープランも、予算が裏づけされているものではないので、実現していないところもあるが、区ごとの絵は必要。</p> <p>(小泉委員) 前にも話したが、自分も全く同じ印象で、区プランがマスタープランとして機能することが重要。法定都市計画の指針としての役割を果たすものとして、全市プランは市レベルの大きな戦略としては役立つが、本当の意味での都市計画の指針とはならない。区レベルの方針が非常に重要。順次つくるとなっているが、予算措置も含めてしっかりつくるといことがないと思わないと機能しないと思う。</p> <p>関連する分野別計画により、施設等の配置が個別計画の中で決まっていく。あわせてみると不整合という現状がよくある。空間戦略としてそれらを統合する役割の計画が必要。都市マスの役割を少し拡大してその役割を付加することが必要ではないか。1 ページの 2 に若干そのような記述があるが、せつかく福祉とかコミュニティを広い意味での都市計画の対象としていくのであれば、具体的に誘導できるプランが必要。2 章のコンパクト化のところ、機能を例示できないかと言ったことと関係する。区プランの中で調整する機能を持たせていかないと、都市マスの本来の機能は果たせない気がする。</p> <p>(事務局) 区別の絵については、現行の区プランに、土地利用、水と緑、交通系の 3 つは必ず入っている。今後の改定にも入ってくる。また、しっかりつくるために順次やっていくことを考えている。18 区一度に動かすことは、局のバックアップを含め現実的ではない。各区が各種事業、施策を抱える中でどのタイミングでやるかは、区ごとに検討していく必要がある。</p> <p>空間戦略については、重たい課題だが、今後の検討の中でも考えていきたい。</p> <p>(小泉委員) 担当だけではなく、プランの必要性について、庁内でのコンセンサスをつくっていかなければならない。横浜がいい街で、クオリティが高くみんなが住みたい活動したいという街にするためには、区プランで空間的要素を統合し、市、区だけでなく、様々な主体の協力を得ながらやっていかないと手遅れになる。今頑張ることに意義がある。</p> <p>(吉田委員) 4 ページ (2) 区プラン③の運用の「・・位置づけを高めていく。」がどういうことかを皆で議論していく必要がある。土地利用転換がどんどん出てくる。その時にどんな考え方で行くのか。例えば小学校の跡地利用も周辺のプランをつくって考えたのだろうか。跡地利用とあわせて、地区の中の問題をどう解決していくか、市民、行政で考える場も必要。いえ・みち まち改善事業の区域でも市民が力を出している。もう少し行政が市民を信用しながら一緒にやってい</p>
--	--

	<p>くことも含めて、議論できたら良いのではないか。</p> <p>(事務局) 区プラン改定の進め方は区と議論してやっているが、色々な意見が出ている。実効性の面では、土地利用に関して、市街化調整区域で何かをやりたいといった時にはある程度効力を発揮しているが、それ以外、市街化区域や調整区域で認められているものについては、プランに沿うようお願いはしているが、実効性には疑問がある。効き目がないという意見もある。労力と実効性を考えると、制度としてどう考えるかにまでさかのぼっていくような深い部分が裏にある。そういうことはあるが、必要なことでもあり、区と話をしている段階。頑張っていくとしか言えない。知恵をお借りしたい。</p> <p>(委員長) 他の具体的な指摘事項はないか。</p> <p>(中村委員) どの区からやるか戦略性があっても良いのではないか。例えば、横浜を強くするために都心部の中区、西区から先にやっていく。郊外はじっくりと時間をかけて青葉、都筑をやるなどが見えるだけでもだいぶ雰囲気が違う。</p> <p>5ページの図に時間軸、スパイラルのようなイメージがあって、始りはずれているけど、回っていくからフォローしていくといったところが見えているとわかりやすい。</p> <p>全市プランはバイブル的なものとしてがっちりつくって、あまり直さないで行く。そこら辺の色合いが見えていると折り合いがつくのではないか。</p> <p>区プランは、市民にわかりやすい言葉で書くのは当然であるが、やるべきこと、伝えるべきことは、何ページ使おうが伝えていくような意気込みが必要。</p> <p>(委員長) 1ページの2の内容はとても良い。このトーンが全体を貫いて、区プランの役割は、様々な事情を配慮しつつ、ちゃんとやっていくという重要な手がかりがここに書いてあるので生かしたい。非常に良くできた感じがする。</p> <p>三輪委員の意見は、4ページの下の地区プランの2つの項目の関連性について。地区プランは行政プランであり、地域まちづくり推進条例の地域まちづくりプランは、地域のプランであり、両者をどうやって統合しながらこれからのプランにしていくかを良く考えなさいということ。</p> <p>もう一押しすると非常に良い提言書になる。マスタープランに期待が持てる。パブコメの前に具体的な指摘をしてほしい。</p> <p>4ページの区プランの書き方次第だと思う。例えば、③の項目の運用のところに、実情に合わせながら、最大限効果が発揮できるようにするということが書ければと思う。</p> <p>「なお、・・・についても・・・」の「も」を「を」にすると少し強くなる。</p>
--	--

①に3つ目の項目を設け、「区プランの改定の順序は戦略的に行う」  
「後発のものは必ず一歩ずつ前進し、ひととおりできた時には次の  
ビジョンが見えてくる」のような文言を加える感じ。

③の運用のところ。「位置づけを高めていく」のところは、いろい  
ろ議論した。例えば、1.職員が皆知っている。2.必ず参照される。  
3.財源の配分が連動している。この3つが位置づけを高める要素で  
はないか。そのへんを含めて具体的に書けたら良いのであるが。

④は、単に行政がやりますではなく、みんながやるんだという決意  
がにじみ出てくるようにしたい。

⑤は、「・・・理解を求めたい。」で終わっているが、「求める。」等強  
く出したい。

(吉田委員) ④の内容は大事だが、一人ひとりだけでなく、地域まちづくり活動  
として区プランの改定に意見が言えるような仕組みにしてほしい。  
自分たちのまちをどのようにするかという合意形成が重要。1回目  
の区プラン策定の時は、一人一人の意見を聞くだけだったような感  
じだった。地域まちづくりのエネルギーが反映できるよう内容を書  
いてほしい。

(委員 長) 具体的な文言が浮かんだら教えてください。  
前に戻るが、2章の「安全・安心」の項目が少ない。防犯が入って  
いない。後で漏れがないように、全体のバランスの中で考えてほし  
い。

## (2) その他（・市民意見募集）について

(事務局) 参考資料 意見募集について 説明

(吉田委員) 各地域への出前説明は可能か。

20ページに示されている、まちづくりの地区や町内会、自治会に意  
見をほしいというようなPRをしてほしい。

(委員 長) 出前説明となると委員会で行うことになるが、むしろ、周知のルー  
トをもっと増やせるかということではないか。

eアンケートに何を見せるのか。

(事務局) いろいろなツールを使ってPRしていきたい。eアンケートは、ホーム  
ページにアクセスしてもらって回答する。

周知方法は、広報よこはまに載せる。ポスターを別途つくっている。  
市役所、区役所その他、市営地下鉄の電車、駅に貼る。なるべく目につ  
くようにする。

(委員 長) 携帯カメラでアドレスにアクセスできるようにしたらどうか。  
偏ったところだけに重点的に意見を聞きに行くようなことは好まし  
くない。委員から団体に事務局に送ってほしいと言うことはかまわな  
いが、どうするかは事務局で判断する。反映されるかどうかは、委員  
自身の努力ということになる。

	<p>(金子委員) この提言は、誰から誰に出す提言になるのか。提言書の位置づけが説明されている必要がある。</p> <p>(事務局) 委員長名で、検討委員会から横浜市に横浜市の都市マスに関して提言するということになる。</p> <p>(委員長) 参考資料の目的のところの文言を「・・・提言を広く市民に周知するとともに、市民意見を踏まえた提言とするため。」に修正。 また、事務局から、市民意見募集取りまとめ作業のスケジュールを次回の日程に絡めて説明を。</p> <p>(事務局) 市民意見募集は2月28日までの受付で、その後、改定検討委員会の考え方と併せてホームページで公表する。そのようなまとめや委員の方々との相談を経て、次回委員会は、3月15日14:00から。</p> <p>(委員長) 意見が多い場合は、その意見をどう踏まえたかを工夫して行わないといけない。間に合わない。フレキシブルに行いたい。</p> <p>(中村委員) 市民意見を受けるのは委員会で、委員会として踏まえたものを市役所に提言するということになるという理解でよいか。</p> <p>(事務局) そうです。</p> <p>(委員長) 15日はどのような段取りになるか。</p> <p>(事務局) 状況によるが、今回の資料の(案)をとったものにした。 15日段階では、(案)であるが、議論を経た後、その場で(案)をとっていただくか、あるいは、後日、委員長一任等の形でブラッシュアップした段階で(案)をとることになる。</p> <p>(委員長) 全般に渡り意見があれば。</p> <p>(真野委員) 国交省の首都圏整備年次報告に14の業務核都市を再検討することが載っている。大都市圏の時代ということで、一例としてフランクフルトと上海の概況が紹介されている。発展のキーワードは「イノベーション」。国の政策に対して、横浜が意志表示をしていくようなものがあっても良いと思う。都市マスでも触れてはどうか。</p> <p>(事務局) 上位計画、広域計画における位置づけで表現は工夫したい。</p> <p>(委員長) 他に何かあれば。</p> <p>(吉田委員) 今後の進め方で、区政推進課と委員がディスカッションする場を持ちたい。</p> <p>(委員長) タイミングとしてどういう時期が適切か。</p> <p>(吉田委員) 本当は意見をもらっているところでやるのが良いと思うが、市民の意見が来てからでも良いが。</p> <p>(事務局) 検討してみたい。</p>
資 料	<p>資料1 区プランモデルスタディ結果及び改定の進め方について</p> <p>資料2 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言(素案)(案)</p> <p>参考資料 市民意見募集について</p>